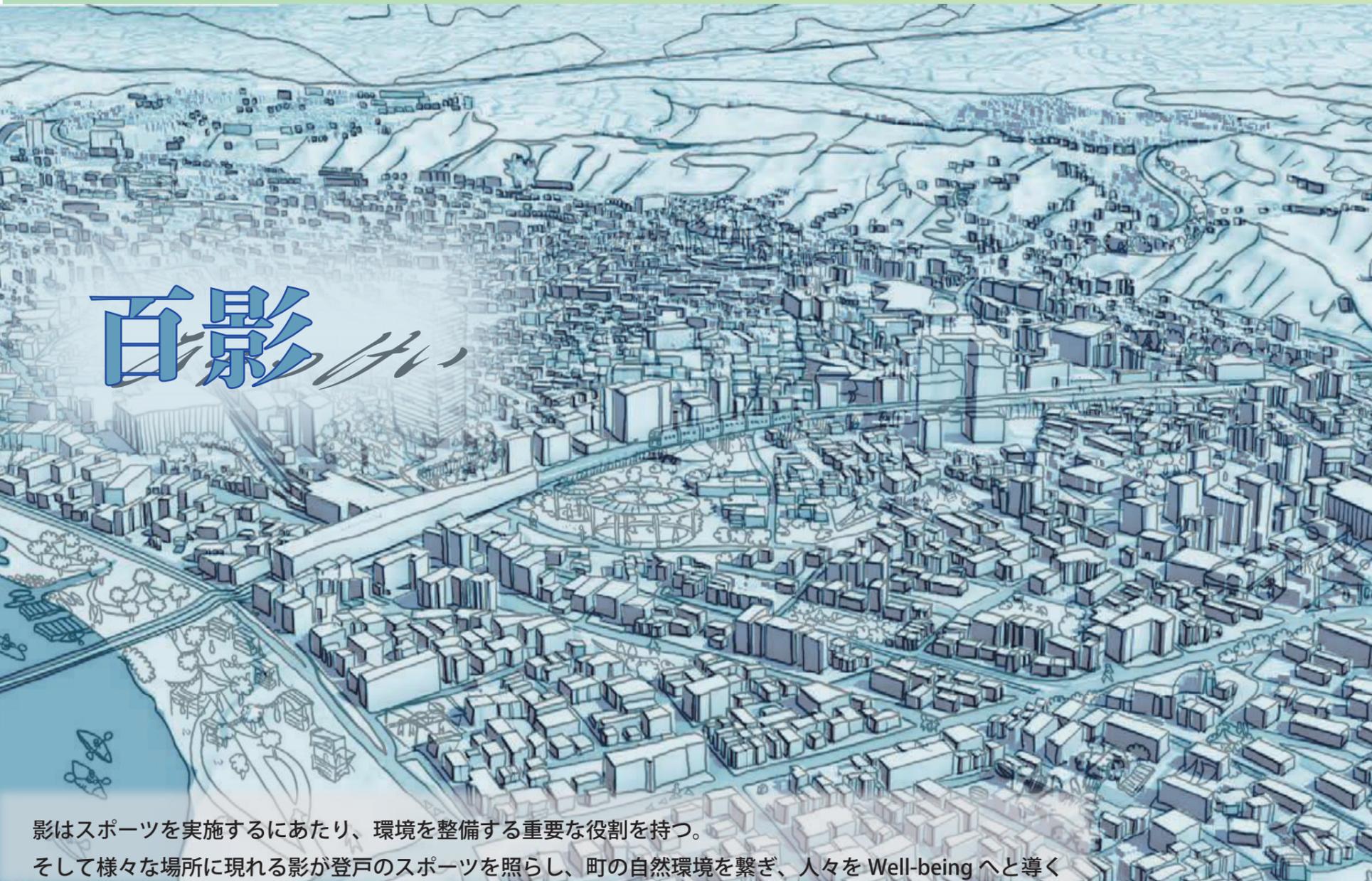


百影

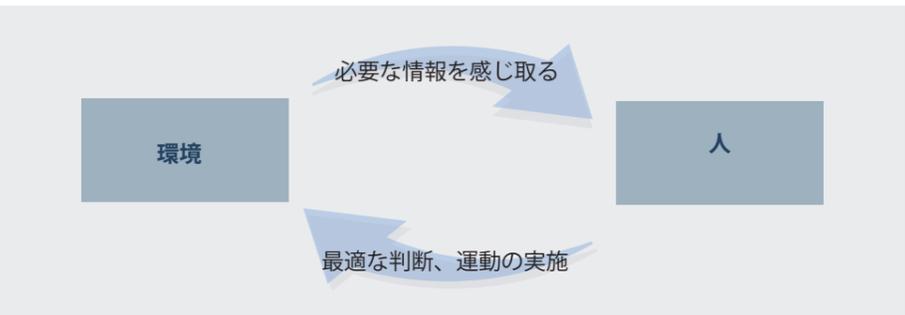


影はスポーツを実施するにあたり、環境を整備する重要な役割を持つ。
そして様々な場所に現れる影が登戸のスポーツを照らし、町の自然環境を繋ぎ、人々を Well-being へと導く

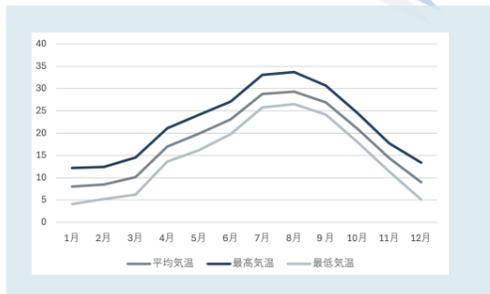
1. スポーツ庁の取り組み

スポーツ庁のプロジェクトの一つに **“Sports in Life”** がある。
これは一人でも多くの人々がスポーツを楽しみ、**スポーツを行うことが生活習慣の一部**になり、ライフパフォーマンスを向上させる目的がある。

スポーツにおいて、置かれている環境から情報を感じ取り、それを元に動作を行う。
動作を行うことで環境にも変化が生じ、新たな変化に対応する動作が求められる。
この**循環プロセス（環境との相互関係）**が**ライフパフォーマンスの向上に重要な影響を与える**と考えられている。

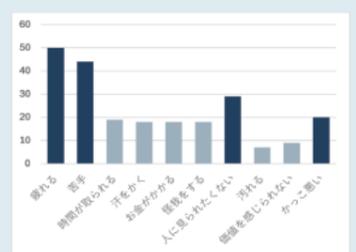


2. スポーツの現状



環境要因
一方、生活の中にスポーツを取り入れる際、**都市の暑さ**は外出や屋外運動を妨げる。

- 運動頻度減少阻害要因**
- 1位 仕事が忙しい (32.6%)
 - 2位 めんどくさい (26.3%)
 - 3位 体力の低下 (19.2%)

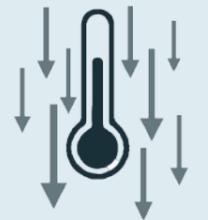
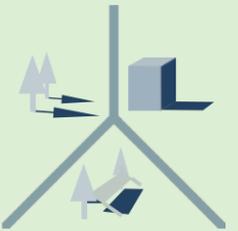
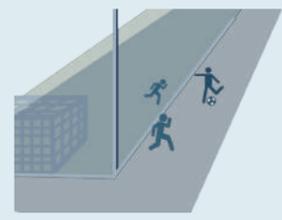
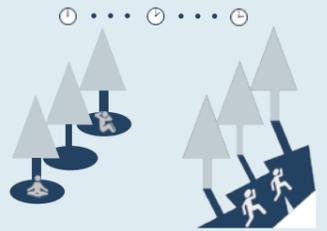


個人要因
運動頻度が減った、もしくは増やせない原因としては、**「仕事が忙しく時間やきっかけがない」**が1位として上がっている。

スポーツが苦手な人に注目すると**実施阻害要因**として、**「人目が気になる、かつこ悪い」**という理由もかなりの割合を占めている。

3. 影が作り出す場所

影は建物、木陰、タープなど**多彩な種類があり、多くの特徴を持つ**。
街に影が落ちた時、その**「空間」**はスポーツを妨げる環境要因や個人要因を解決できる**「場所」**へと生まれ変わる。

影の特徴	→	場所、スポーツに現れる効果
①蒸散作用  根から水を吸い上げ、葉から水分が蒸散する。	→	気温を下げて快適な空間にする  日を遮ることに加え、路面の温度上昇の防止や涼風により、 体感約6℃低下 する。
②どこにでも作れる  影は生活の身近な場所に多くある。また物を使用し、自分の好きな場所に作ることもできる。	→	スポーツとの距離を縮める  コートをわざわざ借りずとも、身近な場所でスポーツができ、仕事の空き時間にでき、 スポーツへのきっかけを増やせる 。
③柔軟性  影は時間や季節ごとに位置や形が変化する。	→	スポーツの楽しみ方が広がる  既存のルールにとらわれず、様々なレベルで取り組み、 スポーツのハードルを下げる 。
④暗さ  影は暗く、人目につきにくい。	→	人目を気にせずスポーツができる  スポーツが苦手な人も、人目のつきにくい場所であれば 取り組みやすい 。

4. 対象地選定

対象地：神奈川県川崎市多摩区登戸

人口：1,541,488人

(14歳以下：176,062 15歳～64歳：1,052,232 65歳以上：313,194)



①都市部にある貴重な自然環境

登戸には、徒歩圏内に多摩川や生田緑地など自然環境がある。一方、それらは駅など人が多く集まる場所との一体感はない。

②再開発によるさらなる人の賑わい

登戸駅前再開発や向ヶ丘遊園跡地再開発などが行われており、商業施設や住宅が入り、さらに人口の増加が見込まれる。

③スポーツを街中で行う社会実験の実施

登戸周辺では、空き地を使ったヨガや河川敷でのアーバンスポーツが社会実験として実施されている。

④影の少なさ

登戸駅前は第一種住宅地域が多く立ち並ぶため、低層住宅が多く、影のできる面積が少ない現状。

6. マスタープラン



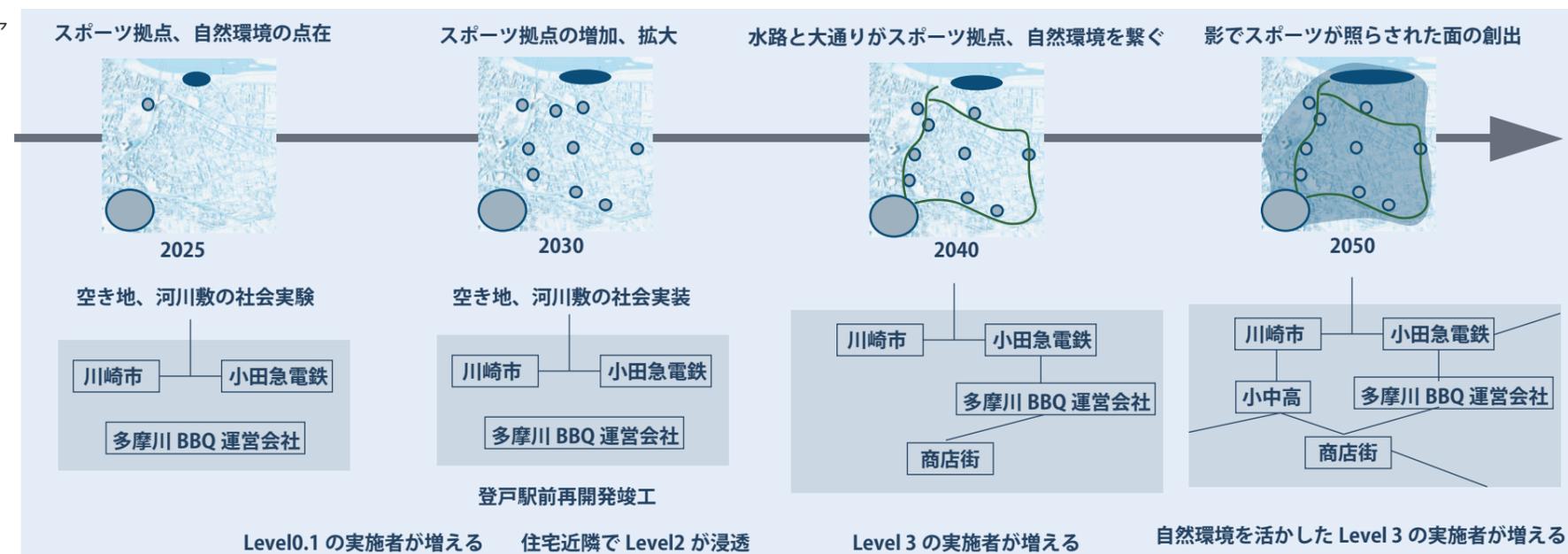
5. 具体的な取り組み

毎日の生活の中にスポーツを取り入れる、「Sport in life」を実施するにあたり、登戸でできるスポーツを挙げる。様々なスポーツが行えるなか、**身体的ハードルと運動する場所、街中に点在すべき密度の3つの軸を用いて分類する。**



3の影が作り出す場所性とこれらの分類を掛け合わせることで、登戸をスポーツが溶け込んだ生活環境へと改変させていく。

7. 計画のタイムスケジュール



7. 具体的な空間

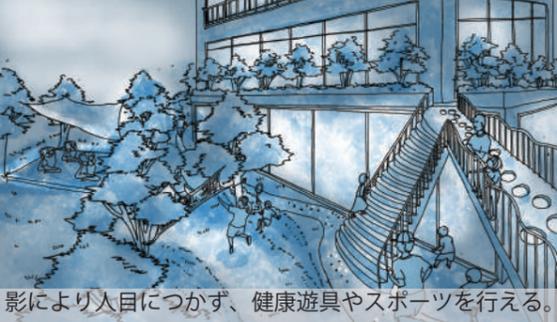
夜の利用

高架下でスクリーンに映像を投影し、プロスポーツの観戦を行う。



仕事終わりの会社員が、人目を気にせず、疲れを開放する機会を家の近くで得る。

屋根の上から光が落ち、影によりコートが現れる。ライトの光のため、コートの位置が変わらず、サッカーなどの競技を地域で作るチームで対戦できる。



影により人目につかず、健康遊具やスポーツを行える。一方で商業施設に隣接しているため、お店の人が周辺環境に目を配っているため安全性が確保される。

Level 0.1



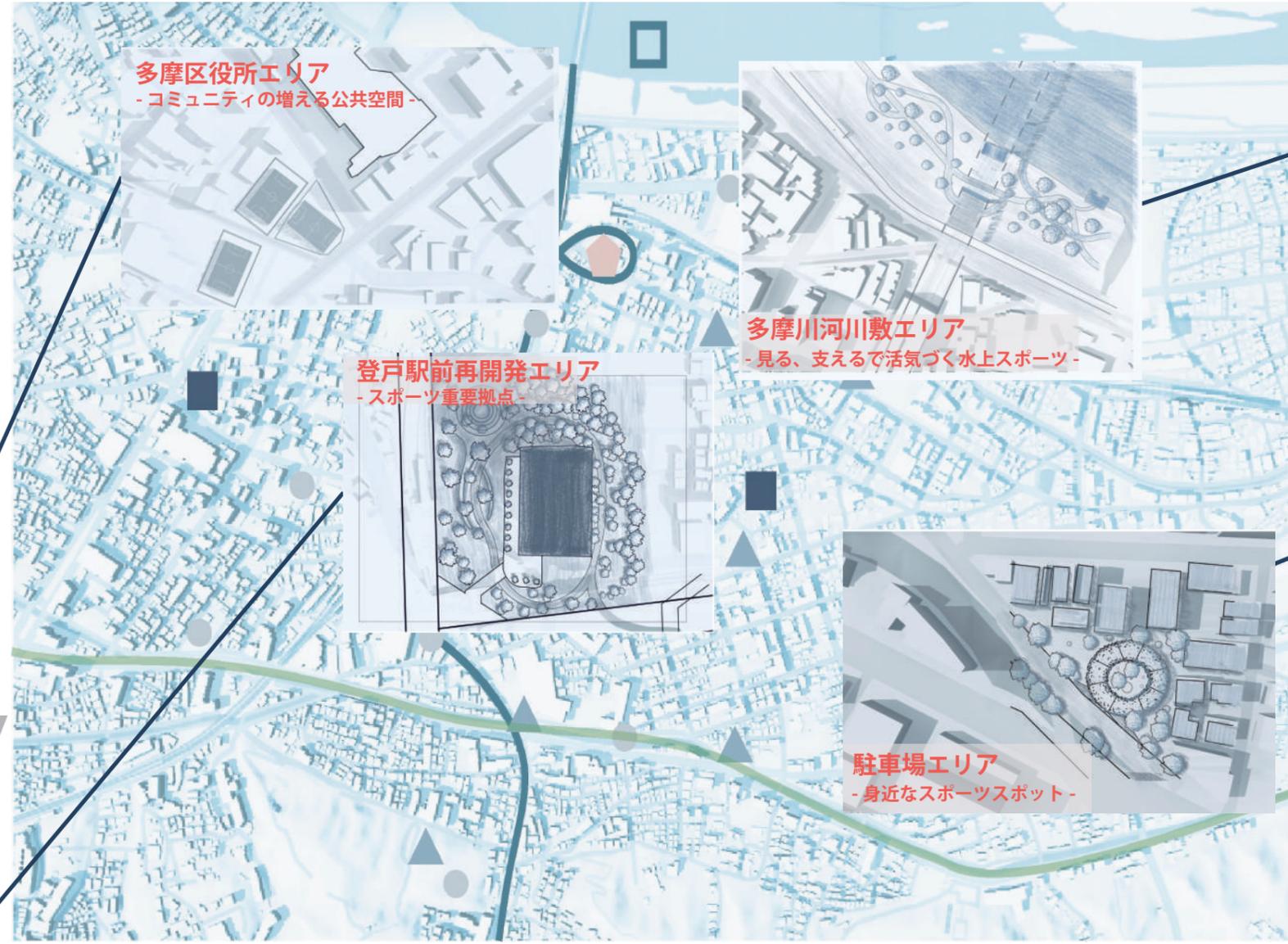
Level 2



Level 3



混合エリア

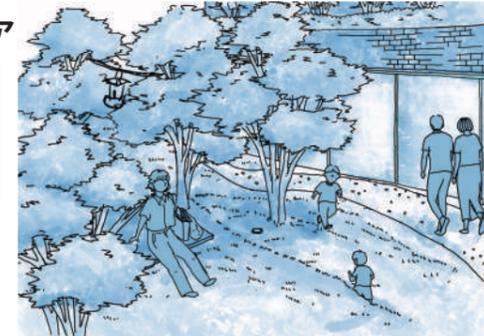


多摩区役所エリア
- コミュニティの増える公共空間 -

多摩川河川敷エリア
- 見る、支えるで活気づく水上スポーツ -

登戸駅前再開発エリア
- スポーツ重要拠点 -

駐車場エリア
- 身近なスポーツスポット -



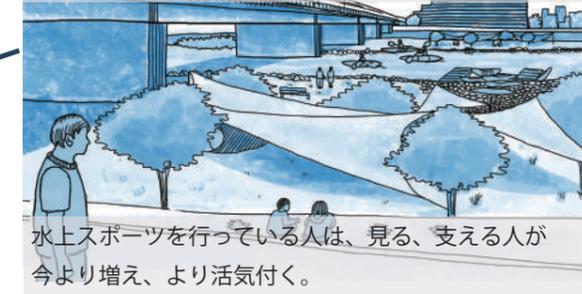
再開発でできた建物の上層階は住居空間となっている。住民は低層部の緑道で様々な Level の運動ができるだけでなく、犬の散歩コースとしても日常的に使う。



夜は緑道にフットライトが灯され、幻想的な空間でランニングする。

屋の利用

木の間にタープをかけ影を創出。多摩川で行われている既存の水上スポーツを観戦でき、スポーツをする、支えるきっかけを作る。

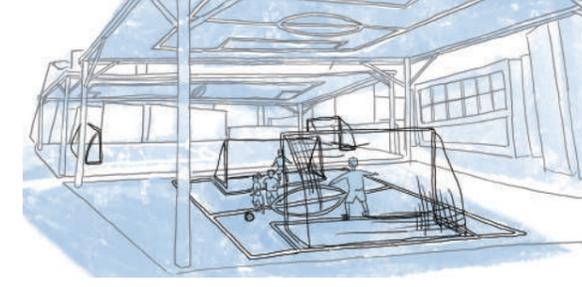


水上スポーツを行っている人は、見る、支える人が今より増え、より活気づく。

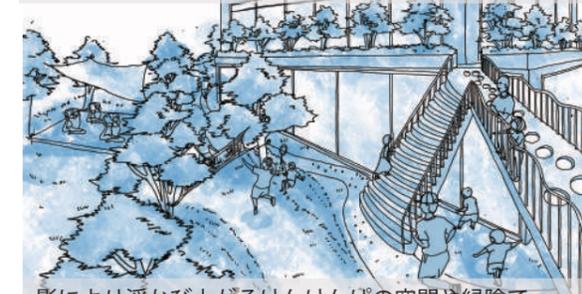


登戸には駅前、住宅地ともに駐車場の数が多いため、一部の駐車場を改修し、住宅周辺にスポーツをできる。子供が外遊び、親同士のコミュニティも形成される。

屋根にはコートのラインの形をした穴が空いており、影でコートが形成される。コートの形状が時間で変化しルールにとらわれず、競技スポーツに触れられる空間。



商業施設を訪れたあと、緑道に誘われ散歩を始める。



影により浮かび上がるけんけんばの空間や緑陰で行えるヨガスペースなど様々な Level の運動を選べる。

